

2023年度（令和5年度）

授 業 計 画

（シラバス）

長野救命医療専門学校

柔道整復師学科

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	柔道Ⅲ		単位数	1単位	選択 必修	必修
					時間数	30時間		
担当教員	田中 健司 飯田 秀男		受講学科	柔道整復師学科		学年	3年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	3時限	講義室等	柔道場			
	後期			授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道を得意にし、生涯にわたって柔道に親しむ。 ・技の連絡変化(連続技)を身に付け、得意技を磨く。 ・投の形・柔の形をしっかり習得する。 				認定実技審査同様の実技試験 5分以内				
教科書				参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	2年次復習・注意事項 ガイダンス(実技審査の流れ)			第1回				
第2回	投の形(手技)受取交代 約束乱取 連続技			第2回				
第3回	投の形(手技)受取交代 約束乱取 連続技			第3回				
第4回	投の形(腰技)受取交代 連続技 約束乱取			第4回				
第5回	投の形(腰技)受取交代 連続技 約束乱取			第5回				
第6回	投の形(足技)受取交代 連続技 約束乱取			第6回				
第7回	投の形(足技)受取交代 連続技 約束乱取			第7回				
第8回	全体のレベルを上げる ポイントをつかみ意識する			第8回				
第9回	全体を通して練習 入退場練習			第9回				
第10回	全体を通して練習 タイムキーパーを使って			第10回				
第11回	全体を通して練習 タイムキーパーを使って			第11回				
第12回	投の形(手技)受取交代 実技審査通りにまとめ			第12回				
第13回	投の形(腰技)受取交代 実技審査通りにまとめ			第13回				
第14回	投の形(足技)受取交代 実技審査通りにまとめ			第14回				
第15回	前期期末試験練習 全体のまとめ			第15回				

授業科目区分	専門	担当科目	関係法規		単位数	2単位	選択必修	必修
					時間数	60時間		
担当教員	飯田 秀男		受講学科	柔道整復師学科		学年	3年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	1時限	講義室等	3年教室			
	後期	月曜日	1時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師が医療に携わる者として必要な法令を学び、倫理観を持つ。				定期試験、出欠席				
教科書	関係法規			参考書				
履修上の注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回	柔道整復師法とその関連内容10 罰則1			
第2回	序論1 法の意義、体系			第2回	柔道整復師法とその関連内容11 罰則2			
第3回	序論2 柔道整復師に関する法律			第3回	柔道整復師法とその関連内容12 指定登録機関及び指定試験			
第4回	序論3 患者の権利			第4回	柔道整復師法とその関連内容13 附則			
第5回	柔道整復師法とその関連内容1 柔道整復師法の目的			第5回	関係法規1 医療従事者の資格法1			
第6回	柔道整復師法とその関連内容2 柔道整復師免許			第6回	関係法規2 医療従事者の資格法2			
第7回	柔道整復師法とその関連内容3 柔道整復師名簿			第7回	関係法規3 医療従事者の資格法3			
第8回	柔道整復師法とその関連内容4 柔道整復師国家試験			第8回	関係法規4 医療法1			
第9回	柔道整復師法とその関連内容5 合格証書と合格証明書			第9回	関係法規5 医療法2			
第10回	柔道整復師法とその関連内容6 業務1			第10回	関係法規6 医療法3			
第11回	柔道整復師法とその関連内容7 業務2			第11回	関係法規7 姿顔福祉関係法規			
第12回	柔道整復師法とその関連内容8 施術所			第12回	関係法規8 社会保険関係法規			
第13回	柔道整復師法とその関連内容9 雑則			第13回	関係法規9 その他の関係法規			
第14回	前期のまとめ			第14回	後期のまとめ			
第15回	小テスト			第15回	小テスト 1年間の復習			

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	社会保障制度		単位数	1 単位	選択 必修	必修
					時間数	30 時間		
担当教員	飯田 秀男		受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	2 時限	講義室等	3年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師が医療に携わる者として必要な法令を学び、倫理観を持つ。				定期試験、出欠席				
教科書	関係法規 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション 序			第1回				
第2回	わが国の社会保障 社会保障とは			第2回				
第3回	わが国の社会保障 社会保障制度とは			第3回				
第4回	わが国の社会保障 医療保険制度とは			第4回				
第5回	柔道整復師業務における療養費 療養費制度の概要			第5回				
第6回	柔道整復師業務における療養費 療養費とは			第6回				
第7回	柔道整復師業務における療養費 柔道整復療養費			第7回				
第8回	柔道整復師業務における療養費 柔道整復療養費の推移			第8回				
第9回	柔道整復師業務における療養費 療養費の算定			第9回				
第10回	柔道整復師業務における療養費 療養費請求のケーススタディ			第10回				
第11回	職業倫理 医療従事者の職業倫理			第11回				
第12回	職業倫理 柔道整復師に必要な基本的倫理観			第12回				
第13回	職業倫理 柔道整復師の社会的責任と対応			第13回				
第14回	職業倫理 グループディスカッション			第14回				
第15回	職業倫理 医療における情報と責任			第15回				

授業科目 区分	専門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5単位	選択 必修	必修
					時間数	150時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学年	3年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	2時限	講義室等	3年教室・実技実習室			
	後期	火曜日	2時限	授業形式	講義 実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
認定実技審査の軟部組織損傷の科目を5分間で実践できるようにする。認定実技審査後は国家試験対策を座学でおこない、出題率の高い科目や分野を中心に学習する。				定期試験				
教科書	柔道整復学理論編・実技編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	ガイダンス 認定実技審査要項の読み合わせ			第1回	認定実技対策練習 5分間練習			
第2回	上肢の軟部組織損傷 腱板損傷			第2回	認定実技対策練習 5分間練習			
第3回	上肢の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			第3回	認定実技対策練習 5分間練習			
第4回	下肢の軟部組織損傷 大腿部肉離れ			第4回	認定実技対策練習 5分間練習			
第5回	下肢の軟部組織損傷 ハムストリングス肉離れ			第5回	国家試験対策 衛生学 健康の概念			
第6回	下肢の軟部組織損傷 膝半月板損傷			第6回	国家試験対策 衛生学 感染症			
第7回	下肢の軟部組織損傷 膝十字靭帯損傷			第7回	国家試験対策 衛生学 消毒			
第8回	下肢の軟部組織損傷 膝側副靭帯損傷			第8回	国家試験対策 衛生学 環境衛生			
第9回	復習 小テスト			第9回	国家試験対策 衛生学 生活環境			
第10回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			第10回	国家試験対策 衛生学 母子保健			
第11回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			第11回	国家試験対策 衛生学 学校保健			
第12回	下肢の軟部組織損傷 足関節捻挫			第12回	国家試験対策 衛生学 産業保健			
第13回	口頭試問対策 上肢・下肢軟部組織損傷			第13回	国家試験対策 衛生学 成人・高齢者保健			
第14回	復習 小テスト			第14回	国家試験対策 衛生学 精神保健			
第15回	前期まとめ 試験対策			第15回	国家試験対策 衛生学 地域保健から			

授業科目 区分	専門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5単位	選択 必修	必修
					時間数	150時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学年	3年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	1 時限	講義室等	3年教室			
	後期	火曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
国家試験に向けて大詰めとなる年。国家試験合格に向けて苦手を克服していく。				定期試験				
教科書	生理学 運動学 柔道整復学 理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	国家試験対策 運動学 運動の目的・運動の表し方・身体運動と力学			第1回	国家試験対策 生理学 循環の生理学			
第2回	国家試験対策 運動学 運動器の構造と機能			第2回	国家試験対策 生理学 呼吸の生理学			
第3回	国家試験対策 運動学 神経の構造と機能			第3回	国家試験対策 生理学 消化と吸収			
第4回	国家試験対策 運動学 運動感覚			第4回	国家試験対策 生理学 栄養と代謝			
第5回	国家試験対策 運動学 反射と随意運動			第5回	国家試験対策 生理学 体温調節			
第6回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第6回	国家試験対策 生理学 尿の生成と排泄			
第7回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第7回	国家試験対策 生理学 内分泌系の機能			
第8回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第8回	国家試験対策 生理学 内分泌系の機能			
第9回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第9回	国家試験対策 生理学 生殖			
第10回	国家試験対策 運動学 姿勢			第10回	国家試験対策 生理学 骨の生理学			
第11回	国家試験対策 運動学 歩行			第11回	国家試験対策 生理学 体液の生理学			
第12回	国家試験対策 運動学 運動発達			第12回	国家試験対策 生理学 神経の基本的機能			
第13回	国家試験対策 運動学 運動学習			第13回	国家試験対策 生理学 神経系の機能			
第14回	国家試験対策 生理学 生理学の基礎			第14回	国家試験対策 生理学 筋肉の機能			
第15回	国家試験対策 生理学 血液の生理学			第15回	国家試験対策 生理学 感覚の生理学			

授業科目 区分	専門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5単位	選択 必修	必修
					時間数	150時間		
担当教員	飯田 秀男		受講学科	柔道整復師学科		学年	3年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期			講義室等	3年教室			
	後期	金曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
総論中心に復習していく。				定期試験、出欠席				
教科書	柔道整復学・理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回				第1回	オリエンテーション 柔道整復術とは			
第2回				第2回	柔道整復の業務範囲 柔道整復術を施すための心構え			
第3回				第3回	身体の基礎的状态 損傷時に加わる力			
第4回				第4回	骨折の定義 骨損傷の分類			
第5回				第5回	骨折の程度による分類 骨折の固有症状			
第6回				第6回	骨折時の全身症状 骨折の治癒に影響を与える因子			
第7回				第7回	偽関節の発生原因 まとめ			
第8回				第8回	小テスト			
第9回				第9回	関節の損傷 関節の構成に関わる組織損傷			
第10回				第10回	靭帯の損傷 関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷			
第11回				第11回	神経・血管の損傷 関節部に分布・通過するもの			
第12回				第12回	捻挫・脱臼 総論			
第13回				第13回	脱臼の原因による分類 脱臼固有症状			
第14回				第14回	軟部組織損傷 打撲			
第15回				第15回	末梢神経、血管系、リンパ系損傷 まとめ			

授業科目 区分	専門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	4 時限	講義室等	3年教室			
	後期	火曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
●認定実技審査では口頭試問が課題の一つである。柔整理論を復習するとともに、解剖学・柔整実技などとも合わせて見直し、口頭試問をとれるようにする。				定期試験、出欠席				
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)			参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	国家試験対策1 解剖学総論・組織学・発生学			第1回	骨折総論			
第2回	国家試験対策2 骨の構造			第2回	脱臼総論			
第3回	国家試験対策3 筋の構造			第3回	軟部組織損傷総論 治療法			
第4回	国家試験対策4 脈管系			第4回	骨折各論 鎖骨骨折			
第5回	国家試験対策5 消化器系			第5回	骨折各論 外科頸骨折			
第6回	国家試験対策6 呼吸器系			第6回	骨折各論 コーレス骨折			
第7回	国家試験対策7 泌尿器系			第7回	脱臼各論 肩鎖関節脱臼			
第8回	国家試験対策8 生殖器系			第8回	脱臼各論 肩関節脱臼			
第9回	国家試験対策9 内分泌系			第9回	脱臼各論 肘関節脱臼			
第10回	国家試験対策10 中枢神経系 1			第10回	軟部組織損傷総論各論 腱板損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			
第11回	国家試験対策11 中枢神経系 2			第11回	軟部組織損傷各論 大腿四頭筋 ハムストリングス肉離れ			
第12回	国家試験対策12 末梢神経系 1			第12回	軟部組織損傷各論 膝十字靭帯 側副靭帯 半月板損傷			
第13回	国家試験対策13 末梢神経系 2			第13回	軟部組織損傷各論 下腿肉離れ アキレス腱断裂			
第14回	国家試験対策14 感覚器系 1			第14回	軟部組織損傷 各論 足関節捻挫			
第15回	国家試験対策15 解剖学 総復習			第15回	まとめ			

授業科目 区分	専門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8単位	選択 必修	必修
					時間数	240時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学年	3年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	4時限	講義室等	3年教室			
	後期	木曜日	4時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
過去問題、模試の国家試験対策授業				定期試験				
教科書	衛生学・公衆衛生学(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	国家試験対策 鎖骨骨折			第1回	国家試験対策 骨盤骨折			
第2回	国家試験対策 肩甲骨・上腕骨近位端骨折			第2回	国家試験対策 大腿骨頸部骨折			
第3回	国家試験対策 上腕骨遠位端骨折			第3回	国家試験対策 大腿骨骨幹部骨折			
第4回	国家試験対策 前腕骨近位端骨折			第4回	国家試験対策 大腿骨遠位端部骨折			
第5回	国家試験対策 前腕骨遠位端骨折			第5回	国家試験対策 下腿骨近位端部骨折			
第6回	国家試験対策 手根骨骨折			第6回	国家試験対策 膝蓋骨骨折			
第7回	国家試験対策 手指骨折			第7回	国家試験対策 下腿骨骨幹部骨折			
第8回	国家試験対策 鎖骨脱臼			第8回	国家試験対策 下腿骨遠位端部骨折			
第9回	国家試験対策 肩関節脱臼			第9回	国家試験対策 足根骨骨折			
第10回	国家試験対策 肘関節脱臼			第10回	国家試験対策 股関節脱臼			
第11回	国家試験対策 手関節部脱臼			第11回	国家試験対策 膝関節・膝蓋骨脱臼			
第12回	国家試験対策 軟部組織肩関節部			第12回	国家試験対策 軟部組織股関節部			
第13回	国家試験対策 軟部組織肘関節部			第13回	国家試験対策 軟部組織膝関節部			
第14回	国家試験対策 軟部組織手関節部			第14回	国家試験対策 軟部組織下腿部			
第15回	国家試験対策 まとめ			第15回	国家試験対策 まとめ			

授業科目 区分	専門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	小島 弘光		受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	3年教室・実技実習室			
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義 実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
認定実技審査に向けて、固定法を学ぶ。認定実技審査で、どの科目にも対応できる実践力をつける。				定期試験(実技試験)・出席率				
教科書	柔道整復学・実技編(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	ガイダンス 他 肩鎖関節上方脱臼 固定			第1回	復習			
第2回	肩関節前方脱臼 固定			第2回	復習			
第3回	肩関節前方脱臼 固定			第3回	認定実技対策練習			
第4回	肘関節後方脱臼 固定			第4回	認定実技対策練習			
第5回	肘関節後方脱臼 固定			第5回	認定実技対策練習			
第6回	コーレス骨折 固定			第6回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第7回	コーレス骨折 固定			第7回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第8回	鎖骨骨折 固定			第8回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第9回	鎖骨骨折 固定			第9回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第10回	上腕骨骨幹部骨折 固定			第10回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第11回	上腕骨骨幹部骨折 固定			第11回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第12回	第5中手骨頸部骨折 固定			第12回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第13回	手第2指PIP関節背側脱臼 固定			第13回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第14回	肋骨骨折			第14回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第15回	前期まとめ			第15回	国家試験対策 (柔道整復学)			

授業科目 区分	専門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	1 時限	講義室等	3年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
筆記試験対策として基礎知識と応用知識を習得する。				定期試験				
教科書	解剖学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	認定実技対策 膝関節テーピング			第1回				
第2回	認定実技対策 膝関節テーピング			第2回				
第3回	認定実技対策 膝関節テーピング			第3回				
第4回	認定実技対策 足関節テーピング			第4回				
第5回	認定実技対策 足関節テーピング			第5回				
第6回	認定実技対策 足関節テーピング			第6回				
第7回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第7回				
第8回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第8回				
第9回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第9回				
第10回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第10回				
第11回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第11回				
第12回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第12回				
第13回	認定実技対策 総復習			第13回				
第14回	認定実技対策 総復習			第14回				
第15回	認定実技対策 小テスト			第15回				

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8単位	選択 必修	必修
					時間数	240時間		
担当教員	掛川 晃			受講学科	柔道整復師学科		学年	3年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、整形外科での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	3年教室		
	後期	金曜日	1 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
国家試験レベルの問題で80%以上の正答率となるように、身体の構造を単位ごとに復習し系統的に理解する。					定期試験(100点満点)により評価し、60点以上を合格とする。			
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)				参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回				第1回	国家試験対策1 解剖学総論・組織学・発生学			
第2回				第2回	国家試験対策2 骨の構造			
第3回				第3回	国家試験対策3 筋の構造			
第4回				第4回	国家試験対策4 脈管系			
第5回				第5回	国家試験対策5 消化器系			
第6回				第6回	国家試験対策6 呼吸器系			
第7回				第7回	国家試験対策7 泌尿器系			
第8回				第8回	国家試験対策8 生殖器系			
第9回				第9回	国家試験対策9 内分泌系			
第10回				第10回	国家試験対策10 中枢神経系1			
第11回				第11回	国家試験対策11 中枢神経系2			
第12回				第12回	国家試験対策12 末梢神経系1			
第13回				第13回	国家試験対策13 末梢神経系2			
第14回				第14回	国家試験対策14 感覚器系			
第15回				第15回	国家試験対策15 解剖学 総復習			

授業科目 区分	専門	担当科目	柔道整復実技Ⅲ		単位数	4単位	選択 必修	必修
					時間数	120時間		
担当教員	小野澤 大輔			受講学科	柔道整復師学科		学年	3年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	2・3 時限	講義室等	実技実習室・3年教室			
	後期	月曜日	2・3 時限	授業形式	実技 講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
認定実技審査の対策授業(整復)と国家試験対策の授業をします。				出席、中間テスト、期末テストの総合で評価します。				
教科書	全国柔道整復学校協会柔道整復理論、実技			参考書	最初の授業で紹介します			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	授業の解説 1年間の授業の進め方			第1回	脱臼テスト ロールプレイト			
第2回	肩関節脱臼 解説と練習			第2回	骨折テスト ロールプレイト			
第3回	肩関節脱臼 ロールプレイト			第3回	認定実技審査練習 ロールプレイト			
第4回	肘関節脱臼 解説と練習			第4回	認定実技審査練習 ロールプレイト			
第5回	肘関節脱臼 ロールプレイト			第5回	国家試験対策説明 解説			
第6回	肩鎖関節脱臼 解説と練習			第6回	国家試験対策 テスト			
第7回	肩鎖関節脱臼 ロールプレイト			第7回	国家試験対策 テスト			
第8回	脱臼テスト ロールプレイト			第8回	国家試験対策 テスト			
第9回	コーレス骨折 解説と練習			第9回	国家試験対策 テスト			
第10回	コーレス骨折 ロールプレイト			第10回	国家試験対策 テスト			
第11回	鎖骨骨折 解説と練習			第11回	国家試験対策 テスト			
第12回	鎖骨骨折 ロールプレイト			第12回	国家試験対策 テスト			
第13回	上腕骨外科頸骨折 解説と練習			第13回	国家試験対策 テスト			
第14回	上腕骨外科頸骨折 ロールプレイト			第14回	国家試験対策 テスト			
第15回	骨折テスト ロールプレイト			第15回	国家試験対策 テスト			

授業科目 区分	専門	担当科目	高齢者、競技者の外傷予 防、臨床実習前試験	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	榎原 康之		受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。						
学期区分	前期	水曜日	4 時限	講義室等	3年教室		
	後期	水曜日	4 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
柔道整復師が医療に携わる者として必要な知識を学び、倫理観を持つ。				定期試験			
教科書	競技者の外傷予防			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	運動の生理学の概要 運動が生体に与える影響			第1回	競技者の外傷予防概論 外傷の発生要因		
第2回	運動の生理学の概要 運動が生体に与える影響			第2回	競技者の外傷予防概論 外傷の予防対策		
第3回	運動の生理学の概要 運動とエネルギー代謝			第3回	競技者の外傷予防概論 外傷の予防対策		
第4回	運動の生理学の概要 運動とエネルギー代謝			第4回	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック		
第5回	運動の生理学の概要 運動と骨・筋肉			第5回	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック		
第6回	運動の生理学の概要 運動と骨・筋肉			第6回	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際		
第7回	運動の生理学の概要 運動と呼吸・循環			第7回	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際		
第8回	運動の生理学の概要 運動と呼吸・循環			第8回	種目別の外傷予防とその実際 柔道における肩関節の外傷予防		
第9回	運動の生理学の概要 運動とホルモン			第9回	種目別の外傷予防とその実際 柔道における肩関節の外傷予防		
第10回	運動の生理学の概要 運動とホルモン			第10回	種目別の外傷予防とその実際 水泳における体幹の傷害予防		
第11回	運動の生理学の概要 競技者の運動生理学的特徴			第11回	種目別の外傷予防とその実際 水泳における体幹の傷害予防		
第12回	運動の生理学の概要 競技者の運動生理学的特徴			第12回	種目別の外傷予防とその実際 バスケットボールにおける膝関節の外傷予防		
第13回	競技者の外傷予防概論 競技者の外傷予防の概要			第13回	種目別の外傷予防とその実際 サッカーにおける足関節の外傷予防		
第14回	競技者の外傷予防概論 競技者の外傷予防の概要			第14回	種目別の外傷予防とその実際 成長期の外傷予防		
第15回	競技者の外傷予防概論 外傷の発生要因			第15回	種目別の外傷予防とその実際 高齢者の外傷予防		

令和5年4月1日発行

発行・編集 長野救命医療専門学校
柔道整復師学科

〒389-0516 長野県東御市田中 66-1

連絡先: Tel0268-64-6699